

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜仁淀川地域＞

<p>項目名及び事業概要、主な事業主体</p>	<p>これまでの主な成果と課題 <small>〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉</small></p>	<p>インプット(投入) <small>〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉</small></p>
<p>1 仁淀川流域茶の生産から販売までの一貫体制の強化による販売額の向上</p> <p>《いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>◆良質茶の主産地である仁淀川流域の生産者が共通認識のもと「仁淀川流域茶」(仕上げ茶)の販売を拡大するとともに、適正な栽培管理と効率的な生産体制の整備や、新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。</p> <p>【JAコスモス、管内の茶生産組織】</p>	<p>○仁淀川流域全体をイメージした販促資材を活用し、流域ぐるみで積極的な販促イベントやPR活動を実施することで、一定のブランドイメージの構築と知名度の向上を図ることができた。</p> <p>○優良茶園維持管理体制について生産者アンケートを実施、その結果、後継者を中心とした中長期的生産体制を検討することとなった。</p> <p>○煎茶以外の紅茶などの商品開発にも取り組み、商品のレパートリーの拡充を図ることができた。</p> <p>◆さらなる知名度向上と消費拡大。 ◆小売販売量の増加。 ◆優良茶園の維持 ◆新商品の開発</p>	<p>◆茶園の若返りを目的とした茶樹更新の意識付け(4/10) ◆仁淀川流域茶産地振興協議会企画運営部会の開催(6/1) ◆平成23年度仁淀川流域茶産地振興協議会通常総会の開催(6/4) ◆イベント開催に向けた土佐茶カフェとの打合せ(5/31)</p>
<p>2 地域を支える基幹品目の振興</p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>◆中山間地域のほ場条件や気象条件を活かした基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ・食用山椒)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【JAコスモス、JAコスモス各生産部会、越知町山椒生産組合】</p>	<p>○ニラは目標達成には及ばなかったが、施設整備による生産体制は整いつつある。新規就農者及び新規栽培者の確保・育成も行われ、今後の販売額の増加が期待される。</p> <p>○ピーマンは目標達成には及ばなかったが、新規栽培者の確保・育成も行われ、今後の栽培面積及び販売額の増加が期待される。</p> <p>○山椒は目標達成したが、収穫作業の人手不足、生育不良樹の発生等、新たな課題も出てきている。</p> <p>◆JAコスモスの基幹品目(ニラ・ピーマン・ショウガ)の栽培面積、生産者数の増加と栽培技術の向上による販売額の増加 ◆山椒の生育不良樹対策、収穫期の雇用確保</p>	<p>◆ニラの肥培管理指導、農業展示園設置、就農計画作成等支援 ◆ニラのレンタルハウス整備事業地域事業推進協議会での計画承認(1回) ◆ピーマン講習会(1回)、目慣らし会・現地検討会(1回) ◆ショウガの土壌消毒剤展示園設置調査(2回) ◆山椒の青実出荷、土壌及び栽培状況調査(各1回)</p>
<p>3 薬用作物の産地拡大による所得の向上</p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村》</p> <p>◆大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコ・サンショウ・ダイダイなどの薬用作物の産地を漢方薬の需要増に対応できるように拡大する。また生産農家の所得の向上と就労の場の確保を図る。</p> <p>【ヒューマンライフ土佐】</p>	<p>○農事組合法人ヒューマンライフ土佐が中心となって薬用作物の面積拡大に取り組んできた。その作付面積は仁淀川流域から嶺北、幡多地域まで拡大し、全県下的な取り組みになっている。特にサンショウの面積拡大が顕著であった。</p> <p>◆薬用作物の産地の育成</p>	<p>◆山椒巡回調査(1回) ◆作付計画検討会(1回) ◆ヒューマンライフ土佐総会(6/18) ◆サンショウ収穫出荷説明会(6/25)</p>
<p>4 力強い高精度トマト産地の確立</p> <p>《仁淀川町、佐川町、日高村》</p> <p>◆高精度トマト生産における生産特性を生かしたトマトの販売戦略や地域ネットワーク、消費者ニーズを基に付加価値を高めた産地間競争力を強化しながら、生産者の所得の向上につなげる。</p> <p>【JAコスモス、JAコスモストマト生産部会】</p>	<p>○食の安全・安心への取組強化、新たな糖度区分による商品開発、販促活動によるイメージ戦略と合わせた高付加価値化により販売単価は向上した。しかし、土壌病害等の多発により安定生産にいたらず減収傾向にあった。</p> <p>◆産地コンセプトを理解し実践できる農業者の育成 ◆安定生産のための栽培技術向上 ◆他産地商品との差別化した販売戦略の展開</p>	<p>◆促成トマト各作業班の活動実践(役員会1回、班活動21回) ◆簿記講座の開催(1回) ◆個別カウンセリング(10回) ◆栽培管理指導(定例会、個別指導) ◆土壌及び植物体調査(97点)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ◆茶樹更新の必要性の意識が向上(茶樹更新勉強会出席者数:役員7名) ◆関係者の販売拡大への意識の向上(企画運営部会参加者:8名) ◆生産者及び関係機関との年間活動計画の共有化(通常総会参加者:36名) ◆土佐茶カフェとお茶の淹れ方教室等の計画策定(打合せ参加者:3名) 		<p>【指標】仕上茶の販売量 (H19 茶全体の8%) (H22 茶全体の11.4%)</p> <p>【目標(H27)】16%</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ニラの新規就農者(1人)がレンタルハウスを利用して施設化予定 ◆ピーマンの適期定植及び初期管理の意識向上 ◆ショウガの土壌消毒剤ヨウ化メチルの抑草効果を実証 ◆山椒の青実出荷(5/10~29)は順調、ただし価格は厳しい 		<p>【指標】出荷量H22(ニラ573t、ピーマン245t、ショウガ882t、食用山椒30t)</p> <p>【目標(H27)】 ニラ650t、ピーマン270t、ショウガ950t、食用山椒32t</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆山椒の栽培面積は拡大傾向にあるが、10年生以上樹の枯死が目立つことが判明 ◆地域別の作付計画作成の確認が進んだ ◆ヒューマンライフ土佐総会参加者(168名/396名) ◆サンショウ収穫出荷説明会参加者(約100人/約200人) 		<p>【指標】薬用作物の作付面積 ミシマサイコ(H19:38ha)(H22:47ha) サンショウ(H19:12ha)(H22:59ha) ダイダイ(H22:18ha)</p> <p>【目標(H27)】 ミシマサイコ 70ha サンショウ 80ha ダイダイ 30ha ※一部、愛媛県域を含む</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆品質定期検査、栽培暦検討、レシピ検討が進んだ ◆簿記講座の受講者(4人) ◆個別経営目標の作成(10戸/17戸) ◆生育状況に合わせた適期栽培管理の実践 ◆土壌及び植物体調査に基づいた施肥の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ◆販売(5月下旬現在) ・促成トマトのJA扱い販売量261t(昨年262t) ・夏秋トマトは順調に推移 	<p>【指標】高糖度トマトの販売額 (H19 4.2億円) (H22 3.7億円)</p> <p>【目標(H27)】5.1億円</p>

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>5 JAとさし園芸産地ビジョン実現に向けた取組の推進と販売体制の強化</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。</p> <p>【JAとさし】</p>	<p>○JAとさし園芸産地ビジョンの策定(H21～23)</p> <p>○JAとさし西部集出荷施設の整備(H21～22)</p> <p>(1)集出荷場等整備(H21)</p> <p>(2)土佐文旦選果機・生姜重量選別機ライン整備(H22)</p> <p>(3)青ねぎパーシャルシール包装機・予冷施設整備(H22)</p> <p>○JAとさし宇佐ピーマン集出荷場の整備(H22～23)</p> <p>(1)自動秤量包装機導入(H22)</p> <p>(2)集出荷場拡張(H23)</p> <p>◆農産物価格の低迷を背景に新たな経費負担を伴う、JAとさし集出荷場施設再編構想の実現には、係る品目を単位とする組合員の合意形成に時間を要する。</p>	<p>○H24 こうち農業確立総合支援事業(県事業)の申請</p> <p>○競争力強化生産総合対策事業(国事業)の申請</p>
<p>6 加工用ワサビの加工の促進</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、加工用ワサビを製造する食品加工会社の取組を支援することにより、加工用ワサビ生産農家の規模拡大や産地育成を図り、基幹品目である加工用ワサビ生産の振興につなげる。</p> <p>【(株)マルカ】</p>	<p>○加工出荷施設の整備(H22)</p> <p>販売先である金印(株)が希望する200tの一次加工処理能力は備えることができた。また、県農業振興部、園芸連とも有望品目に位置付け、生産振興に取り組んでいる。</p> <p>◆生産者数の拡大</p> <p>◆既存栽培者の栽培規模拡大</p> <p>◆栽培技術向上への支援</p> <p>◆次加工処理機械等の有効活用</p>	
<p>7 土佐文旦の加工</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆地域の主要品目である土佐文旦の県内市場の飽和化・贈答需要の減少による単価安へ対応するため加工品の原料としての有効活用を図る。</p> <p>【JAとさし、土佐文旦加工組合、菊水酒造(株)、ひまわり乳業(株)】</p>	<p>○JAとさしと菊水酒造(株)が連携し、平成21年度から下級品(21年10t、22年度30t、23年度30t)を活用した加工品(酒類)を4品開発・発売した。平成21年度総合支援事業導入により搾汁機を菊水酒造(株)が設置した。また、販売では、菊水酒造(株)のルートだけではなく、JAでもJAラベルによる商品として、贈答用セットもつくり販売を始めた。</p> <p>◆文旦の下級品は年平均200tあり加工用原料の消費拡大が必要。</p> <p>○土佐文旦加工組合では委託加工により飲料「ぶんぶん」を製造し、消費拡大を目指して都市部のアンテナショップ等での販売に取り組んだ。しかし、消費の低迷等の課題があり、新たにひまわり乳業(株)との連携による新商品の開発と販路の拡大を図ることとし、ステップアップ事業を導入して新商品を共同開発し、ANAの国内線内での販売(24年1月～3月)を行うとともに商談会、見本市に参加した。今後は都市部での販路拡大にも取り組むこととしている。また、新たに搾汁体制が整い、加工業者と商品の共同開発と販路拡大の活動を加え汁の販売を活動の柱の一つとなった。</p> <p>◆開発した商品の販路拡大と果汁の消費の拡大のため加工業者との連携による商品開発と販売が必要。</p>	<p>◆23年度文旦と果汁の消費状況と商品の販売状況について調査</p> <p>◆土佐文旦果汁の消費拡大に向け生産組織と加工業者等の協議できる場の設定</p> <p>◆加工品のPRの機会の推進</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】JAとさし園芸品出荷量 (H23園芸年度:15,263t) 【目標(H27)】16,000t
		【指標】加工用ワサビ加工出荷量 (H21: 60.0t) (H23: 71.3t) 【目標(H27)】150t
◆産地側と加工側による、商品のPRについて意識統一が図られた。 ◆新たな加工業者にジュース原料として、果汁の販売が開始された。 ◆加工業者の新商品の開発	◆販売(4月～6月)新たな加工業者へ果汁が380リットル(土佐文旦約2.7t)が販売された。	【指標】加工原料用の土佐文旦の確保 (H19: 0t) (H22: 30t) 加工品の開発と発売 (H19: 1品) (H22: 3品) 【目標(H27)】 100t 4品(1品/年)

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>8 生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆地域の基幹品目である生姜のフレッシュ生姜の増産を図るとともに、加工製品の生産性の向上を図り、土佐市内等の生姜生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【㈱前川博之商店】</p>	<p>○充填機等の導入及び工場の新設を行うことにより、経常利益率が高い加工品の生産性が向上している。</p> <p>◆生姜原体の受込量の確保 ◆加工品の売上増</p>	<p>○全国各地の商談会への参加 ○生産農家との打合せ会の実施 ○新製品開発を検討</p>
<p>9 いの地域における園芸産地の維持・発展</p> <p>《いの町》</p> <p>◆農産物価格の低迷、農業従事者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい状況がみられるなか、いの地域の園芸産地ビジョンに基づく生産の振興と集出荷体制整備により販売力を強化し、農業所得向上に繋げる。</p> <p>【JAコスモス(伊野支所、吾北支所)】</p>	<p>○JA伊野園芸産地ビジョンの検討(H21~23)により、園芸産地としての「あるべき姿」の実現に向けた検討を行った。</p> <p>◆農産物価格の低迷を背景に、新たな経費負担を伴う集出荷施設整備には、係る品目を単位として組合員の合意形成に時間を要する。</p>	<p>◆いの町関係職員連絡会の開催(4~6月 3回)</p>
<p>10 集落営農の推進</p> <p>《いの町》</p> <p>◆集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p> <p>【いの町吾北地区】</p>	<p>○こうち型集落営農モデル組織の育成(H21~23) 上東地区営農組織が発足し、ニラ、ワサビ等による協業が始まった。また、稲作の作業受託部門ドリームサポートが発足し23年度は12.2haで取組みとなった。また、集落営農組織の目的を達するために、組織内に野菜に親しみ、自給率向上と直販販売野菜の栽培を研究する部会(有望品目研究部会)も発足させ、平成23年度に3部門で活動を始めた。</p> <p>◆上東営農組合の各部門活動の定着 ◆上東地区外の集落営農組合と上東地区営農組合連携による地域ぐるみの活動展開 ◆集落営農組織の発足による集落営農</p>	<p>◆上東地区営農組合の各種会合の開催支援(7回) ◆集落営農組織の協議会発足の意義を提案</p>
<p>11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発</p> <p>《いの町》</p> <p>◆いの町本川地区の特産品として「本川きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。</p> <p>【本川きじ生産組合、庭先農家、いの町】</p>	<p>○目標達成には到っていないが、飼育及び処理加工マニュアルを作成し、当初飼育羽数より増加した。平成23年秋より新しく商品に「きじつみれ」「きじソーセージ」を追加し、バリエーションを充実させた。</p> <p>◆需要に対応した安定的な生産体制 ◆需要増加に対応できる加工処理設備 ◆販路拡大(県内の知名度アップ、首都圏・関西圏)</p>	<p>○ゆうぱっく(秋冬ギフト)申請(5/14)スライスセット(250g、500g)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		<p>【指標】生姜加工品の販売額 (H22 114,792千円)</p> <p>【目標(H27)】 200,000千円(H27.9)</p>
		<p>【指標】JAコスモス出荷量(H23園芸年度)</p> <p>【目標(H27)】 (園芸年度H23→H27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊野支所 <ul style="list-style-type: none"> 生姜:464t→510t 白芽芋:27t→29t 胡瓜:259t→265t ・吾北支所 <ul style="list-style-type: none"> 柚子:232t→250t ワサビ:21t→30t
<p>◆上東地区営農組合の作業受委託の実施216.58a</p> <p>◆上東地区営農組合有望品目部会の活動強化が図られた。</p> <p>◆協議会についての理解が深まり、発足へ向け検討が始まった。</p>	<p>◆上東地区の有望品目として新たに茎ブロッコリーとネギの栽培が開始された。</p>	<p>【指標】</p> <p>周年経営する協業面積(H22:1.7ha)</p> <p>水稲作業の受託面積(H22:8ha)</p> <p>集落営農組織数(H22:6組織)</p> <p>集落営農組織のネットワーク化</p> <p>【目標(H27)】</p> <p>周年経営する協業面積 1.9ha</p> <p>水稲作業の受託面積 24ha</p> <p>集落営農組織数 7組織</p> <p>集落営農組織の協議会発足</p>
<p>○ゆうぱっく(秋冬ギフト)採択(6/25)</p>		<p>【指標】本川きじの生産羽数 (H20:1,000羽) (H23:2,400羽)</p> <p>【目標(H27)】6,800羽</p>

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>12 農業振興ネットワークの構築による地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆生産農家、加工品製造者、農産物等販売者等のネットワークを構築し、情報の共有化を図り、日高の農産物及び村の知名度アップを図ることにより、地域生産者の所得向上や地域の活性化を目指す。</p> <p>【日高村】</p>		<p>◆日高村アグリネットワーク会議の開催(2回)</p> <p>◆庁内プロジェクト会議の開催(1回)</p>
<p>13 仁淀川流域における木材産業の振興</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、生産・加工・流通の安定化に向けた取組を行い、木材産業の振興を図る</p> <p>【森林組合・林業事業体・素材生産業者・製材業者等】</p>	<p>○「森の工場」の推進により、事業体や担い手の育成、間伐の推進が図られた。</p> <p>◆担い手の育成 ◆施業の集約化 ◆低コストの取組 ◆加工・流通体制の整備</p>	<p>◆林業事業体事業説明会の開催(1回)</p> <p>◆森の工場事業体(森林組合及び林業事業体)の個別ヒアリング及び増産に向けての協議の実施</p>
<p>14 特用林産物の販売拡大</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆特用林産物(シキミ・サカキ・竹炭等)の生産量の増加、品質向上のための取組などにより販売を拡大し、生産者の所得の向上を図ると共に新たな特用林産物への取組を行う</p> <p>【JAコスモス・仁淀川森林組合・特用林産物生産者】</p>	<p>○栽培指針の作成、生産者実態調査、現地研修会、目慣らし会、病害虫防除研修会等の取組により、品質が向上し生産量の増大が図られ、生産者の所得向上が図られた。</p> <p>◆生産量の増加 ◆販売価格の向上</p>	<p>◆特用林産物【生産・販売拠点】カルテ作成調査の取りまとめ</p> <p>◆特用林産物流通状況調査の実施</p>
<p>15 うるめのブランド化</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆「宇佐の一本釣りうるめ」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供する体制づくり、また、観光分野への経済効果の波及を目指す。</p> <p>【企業組合宇佐もん工房】</p>	<p>○年間を通じての生産・販売体制の構築、市場調査、うるめを使ったレシピの開発により、ブランド化が一定できた。</p> <p>○加工場の新設等によって、顧客からのニーズに対応でき、取引件数も伸びてきている。</p> <p>◆宇佐もん工房経営の安定化</p>	<p>○『一本釣りうるめ祭り』の開催(市内12店舗参加)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】農産物販売額 (H22: 3.2億円) 【目標(H27)】3.4億円
◆新たな補助制度の周知徹底(参加事業体11社) ◆増産に取り組む林業事業体の把握(事業体数7社)		【指標】素材生産量 (H19: 5.9万m ³) (H22: 3.7万m ³) 【目標(H27)】5.6万m ³
◆生産者の概要把握 生産者ごとの生産品目、生産量、出荷先等の状況把握が進んだ。		【指標】シキミ・サカキの出荷量 (H19 22t) (H22 30t) 竹炭の出荷量 (H22 20t) 【目標(H27)】 シキミ・サカキ 32t 竹炭 25t
	月別売上高目標(第1四半期7,400千円 →実績7,656千円)	【指標】うるめ商品の販売額 (H19: 0千円) (H22: 5,493千円) 【目標(H27)】 100,000千円

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承</p> <p>《土佐市、いの町》</p> <p>◆地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙及び機械すき和紙を含め、県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。また、特に担い手については、手すき和紙職人、道具職人、楮栽培農家のいずれもが高齢化が深刻な状況となっており、本格的な後継者の育成に繋げる取組を行う。</p> <p>機械すき和紙については、用途拡大に向け、異業種連携やマッチング等を実施し、更なる販路拡大を目指す。</p> <p>【手すき和紙協同組合、高知県製紙工業会、いの町商工会、i-nos.net 他】</p>	<p>○景気低迷やデフレ等の要因で、目標の達成には及ばなかったが、紙産業全体が大幅に落ち込み、土佐和紙の知名度の向上、下降の一端をたどっていた販売額減少の鈍化や原料栽培、加工技術の継承に一定の効果が出ている。特に、土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという機運の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、清酒のラベル、ふるさと博名刺等)</p> <p>○廃業になっていた書道用紙事業の復活や、新規書道半紙の誕生により、今後の受注対応や販売額増加に期待ができる。</p> <p>◆土佐和紙販売額の向上を図る上でキーマンとなる立場の組織や人材が不在。</p> <p>◆商品(土佐和紙)としても原紙のみの販売は限界があるため、商品化、包装等で付加価値をつけた販売戦略の構築が必要。</p> <p>◆手すき和紙職人も多くが高齢化しており、後継者の育成が課題。現在、人気のある商品も生産量が少なく、注文があっても断る事例も多くなっている(鳥の子名刺、清張紙、納経帳、がんび紙等)。所得の向上も含めて職業としてさらに魅力あるものにすることが必要。</p>	<p>○いの町緊急雇用非常勤職員6/5～雇用開始し、土佐和紙の魅力広報スタッフとして活動。事務所は紙の博物館内</p> <p>○182名に紙漉き体験を紙博と工芸村で分割受入。</p> <p>○和紙カード入れ作り体験を実施しオリジナル加工品をPR</p>
<p>17 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆サンシャイン高岡跡地に観光案内機能や野菜等の直販所などを整備し、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。</p> <p>【土佐市商店街活性化推進協議会】</p>	<p>○集客拠点施設の整備に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置し、運営等について協議し計画策定に取り組んだ。</p> <p>◆安定的な運営のため、他店舗(スーパー等)との差別化</p>	<p>◆産業振興推進総合支援事業費補助金申請</p>
<p>18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化</p> <p>《いの町》</p> <p>◆空き店舗・旧町屋・倉庫等について、地域産品の販売やコミュニティーの場、新規起業希望者へのチャレンジショップ等への有効活用を目指し、いの町商店街の再生へ向けた取組を行う。</p> <p>人を商店街へ呼び込むための取組として、仁淀川七色ロード市の定着化・拡大を図るとともに、商店街の核となるまちの駅の設置に向けた検討を図る。</p> <p>【いの町、いの町商工会】</p>	<p>試験イベントの実施(12月、2月)を踏まえ</p> <p><成果></p> <p>○店主への意識づけ、地域住民に対する商店街PR</p> <p>○個店の販売促進手法としての100円市(イベント時)</p> <p>○空きスペース(店舗、車庫、駐車場)活用のきっかけづくり</p> <p>○地域住民の参画</p> <p><課題></p> <p>◆個店の魅力向上(わざわざきてもらう店づくり)</p> <p>◆空き店舗等の有効活用(受け皿の確保、魅力あるプレイヤーの確保)</p> <p>◆活動の継続および人材育成</p>	<p>○<にやどがわ七色ロードの実施></p> <p>・4/29(日)・・・紙のこいのぼりとタイアップ</p> <p>・6/17(日)・・・伊野商業とタイアップ</p> <p>○<空き店舗等の活用></p> <p>・6/19～25・・・イノビ・オーダーの実施</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】土佐和紙の販売額 (H19:1.6億円) (H22:6.6億円) ・機械漉き5.4億円 ・手漉き1.2億円 【目標(H27)】6.6億円(現状の確保)
		【指標】施設での販売額 【目標(H27)】1.1億円
<ul style="list-style-type: none"> ・4/29…図書館前通行者数:1,010名 ・6/17…参加者:159名(伊野商業1年生) 高校生受け入れ店舗:37店 ・6/19～25…参加者:300名以上(集計中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間閉店していた雑貨店が七色ロードの取り組みをきっかけに、花屋として再度開店した。 ・現在閉店している店舗が七色ロードのイベントの日のみ、開店するようになった。 	【指標】いの町商店街の空き店舗率の改善 (H23:25.3%) ※25/99店舗 【目標(H27)】20%未満

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>19 地域産品を活用した冷菓等の製造販売</p> <p>《いの町》</p> <p>◆地域特産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【(有)高知アイス】</p>	<p>○生産体制および品質管理の強化(H22～23)</p> <p>○商品開発および販路拡大(H22～23)</p> <p>開発したドリンクが好評で受注量が増加したが、同時期に生産体制を強化するための施設設備を整備しており、増産が円滑にできた。また、平成22年度には香港でアイスクリームの販売許可を取得することができ、平成23年度には海外での更なる販路拡大を目指し、海外向けHPの作成や商談会参加に取り組みなどしており、今後の販路拡大が見込まれる。</p> <p>◆周年販売を目指し、海外市場の販路拡大</p> <p>◆顧客ニーズへの対応</p>	<p>○シンガポール 試食販売マーケティング(5/11～20)</p> <p>○香港 試食販売マーケティング(6/12～19)</p> <p>○アメリカ 商談会(6/15～19)</p>
<p>20 (株)フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>◆仁淀川町において、地域の商社として「(株)フードプラン」を位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。</p> <p>【(株)フードプラン、仁淀川町】</p>	<p>○主力商品づくり(H21～23)</p> <p>目標(販売額2.6億円)の達成を1年前倒しで実現。雇用増にも貢献。主力商品が「カット野菜」であるため、野菜の高騰により利益確保が困難な局面もあったが、順調に販売額を伸ばした。</p> <p>◆現施設での生産能力が限界に達しており、地域経済へ貢献(雇用増、農家所得増等)するには、施設規模の拡大が必要である。</p>	<p>◆機能規模検討会の開催(1回)</p> <p>加工施設整備への補助金等の財源情報の収集</p>
<p>21 売れる商品づくりによる地産外商の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆佐川町において、地元民間企業の商品の販売促進や、一次産品を使った特長のある商品づくりにより、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。</p> <p>【佐川町、JAコスモス、佐川町商工会、企画本舗さかわ屋、地元酒造会社、地元乳業者、地元加工業者、黒岩じりし、地元酪農家 など】</p>	<p>○平成21年度から酪農家を含めた農商工連携組織である地乳プロジェクト会を設置し、地元産の牛乳を使った商品づくりの取組を進め、平成22年度には、「さかわの地乳」のブランド化や地乳を使った加工品シリーズの商品化を図り、そのPR・販売促進の取り組みが進んだ。平成23年度には、地元の自主的な活動が活発化し、生乳出荷も増加傾向にあり、酪農家の所得も上がってきている。また、地乳加工品も増え、加工業者の所得向上や地域への経済波及効果が見込まれる。</p> <p>◆「さかわの地乳」シリーズ商品の管理、「地乳」商標管理を含めた組織の確立と体制の強化</p> <p>◆酪農家への直接収入化となる取組の実施</p> <p>◆「さかわの地乳」の牛乳、加工品等の販売ルートの確立</p>	<p>◆量販店での販促活動(1回)</p> <p>◆地乳プロジェクト会の開催(2回)</p>
<p>22 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆日高村において、既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取組を進めるとともに、地域資源を活用した企業の取組等を支援することにより、地域の産業の振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○木質ペレット関連商品生産会社の誘致</p> <p>◆既存企業の活性化と新規進出企業の誘致による地域産業の振興</p> <p>◆魅力ある企業の誘致や村内企業の活性化</p>	<p>◆庁内プロジェクト会議の開催(1回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】冷菓等の販売額 (H22: 3.75億円) 【目標(H27)】4.37億円
		【指標】榊フードブランドの販売額 (H19: 2.2億円) (H22: 3.2億円) 【目標(H27)】4.0億円
		【指標】生乳出荷量の拡大 (H21: 240t) (H22: 260t) 【目標(H27)】480t
		【指標】支援企業数 (H21: 1社) (H22: 1社) 【目標(H27)】2社

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>23 地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>◆高知県産のさつまいもを活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。</p> <p>【澁谷食品㈱】</p>	<p>○県外への新店舗の設置</p> <p>◆自社ブランド製品の開発と販路拡大</p> <p>◆原材料のさつまいもの栽培確保</p>	
<p>24 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>◆木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業の施設整備事業を日高村に誘致し、村内での新たな雇用に創出する。また、原材料の木材チップや茶葉については仁淀川流域でほぼ全量を調達することから、雇用と併せた地元生産者への経済効果の波及を目指す。</p> <p>【㈱エスエス】</p>	<p>○企業進出による雇用の増</p> <p>◆地域素材を活用した地域振興</p>	<p>◆新商品開発への取り組み</p>
<p>25 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>◆仁淀川流域の多様な自然や生活文化等の地域資源を基にして旅行商品化を進め、交流人口の拡大を図る。また、仁淀川の「水質日本一」という特性をブランドとして観光PRに活用するとともに、地域産品に仁淀川ロゴマーク用いて販売促進を図るなど、観光と他産業を組み合わせた観光産業化を推進する。</p> <p>【仁淀川地域観光協議会、いの町観光協会、越知町観光協会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村】</p>		<p>○旅行商品及び観光資源等のプロモーション活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エージェント訪問、チラシ・パンフレットの作成(5,000部) ・県コンベンションセールスキャラバン <p>○旅行会社へのツアー売り込み</p> <p>○仁淀川エリアキャンペーンスタート</p>
<p>26 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大</p> <p>《仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、津野町、梶原町》</p> <p>◆横倉山から佐川町にかけての貴重な地域資源(地質)を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原(四国カルスト)も組み合わせて、「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○ジオサイトの整備、実施主体の組織化など、整備事項が多岐にわたり、費用負担も相当規模になると見込まれることから、取組を円滑に推進するために、これらを盛り込んだ事業計画の検討を実施した。</p> <p>◆各6町村での説明会の実施や様々なイベントでの啓発活動など、最も重要であり、最も時間を要する地域住民の認知度の向上</p> <p>◆どのように地質資源の保全を行うか、地質等を如何に教育に役立てるか、地質遺産を楽しむジオツーリズムによって如何に地域経済活性化を図るかなど、ジオパークの3つの柱の整備</p> <p>◆ジオパーク推進拠点や多言語案内看板、説明板等の設置等のハード整備</p> <p>◆しっかりとした運営と運営計画の策定が実施できる運営母体の整備(組織は公的機関、地域社会、私的団体、および研究教育機関などから構成)</p>	<p>◆仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当課長会及び担当者会の開催(5/30) ・総会の開催(6/28)

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】食品加工新規部門の販売額 (H21: 2.0億円) (H23: 3.2億円) 【目標(H27)】4.5億円
◆木質系処理剤の試作品完成		【指標】ペット用木質系排泄物処理剤の 販売額 (H23: 450万円) 【目標(H27)】 9,000万円
	○企画したツアー21本のうち18本が催行され619人が参 加	【指標】 仁淀川地域観光協議会関連のツアー客 数(H23: 500人) 公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19: 52,156人) (H22: 52,902人) 主要観光施設の入込数 (H19: 136,380人) (H22: 135,029人) 【目標(H27)】 仁淀川地域観光協議会関連のツアー客 数 730人(年10%アップ) 公共関連宿泊施設での宿泊者数 56,000人 主要観光施設の入込数 140,000人
◆本年度の事業計画、方向性等について意識の統一 ジオサイトの選定を進め、今後の方向性を明らかにしていくこ とで意識の共有ができた。		【指標】ジオサイトへの入込客数 【目標(H27)】5,000人

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>27 集客施設の整備による新居地区の活性化</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆土佐市の新たな地域振興の拠点、地域情報発信基地として「南風の駅」(仮称)を整備し、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。</p> <p>【(仮称)「企業組合 土佐の夜明け」を予定】</p>	<p>○地域資源を活用した観光商品づくりに取り組む中で、具体的な動きが開始された。</p> <p>◆施設整備の内容や運営方法、体制等の検討</p>	<p>○防災機能を備えた複合施設についての検討会の開催</p>
<p>28 体験型観光・食観光の推進</p> <p>《土佐市》</p> <p>◆土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。</p> <p>【土佐市、土佐市商工会など】</p>	<p>○地域資源を活用した観光商品づくりに取り組む中で、具体的な動きが開始された。</p> <p>○宇佐・高岡の2地域から「まちあるきコース」が誕生し、ガイドの研修を実施。</p> <p>○市場内での体験メニューや、買物ツアーなど旅行商品に組み込まれ、高評価を得ている</p> <p>◆まちあるきガイドの不足</p> <p>◆宇佐土曜市への出店者及び出店品目の不足</p>	<p>○とさあるく。定例会(3回実施)</p>
<p>29 体験型観光の推進と地域資源を活かした特産品づくり</p> <p>《いの町》</p> <p>◆いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組む、体験型観光を推進する。また、宿泊施設の少ない流域において、観光客が地域にお金を落とす仕組みとしての地域素材を活かした名物やお土産品の開発を行う。</p> <p>「グリーンパークほの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。</p> <p>【いの町、いの町観光協会、いの町商工会、ロハスなむささびの里づくり協議会、土佐和紙工芸村 ほか】</p>	<p>○仁淀川地域観光協議会の設立や新たな体験型メニューの構築等により、いの町内の公共関連宿泊施設の利用者も増加しており、流域全体での目標達成は微妙であるが、雇用の増加(土佐和紙工芸村他)や所得の向上、地域の活性化につながっている。</p> <p>○平成23年度にはNHK高知放送局80周年記念として、8月以降仁淀川特集が全国放送されたことから、今後さらなる観光客の増加も期待される。</p> <p>◆ハード・ソフト両面で、流域で受け入れる体制が構築されておらず、流域上げて取り組む組織体制の整備が課題。</p> <p>◆従来から流域で弱い食の観光も含め、さらなる魅力ある体験型観光メニューの構築や地域の資源を活かした銘産品の開発等が必要。</p>	<p>○仁淀川カヌー開き(4/15)</p> <p>○神紙をつなぐ道「いの町」と「仁淀川」体感ウォーク (4/8・29・5/20)</p> <p>○体験観光メニュー『仁淀川にここにバーベキュー』の造成</p> <p>○カヌーの購入設置(1人乗り10艇、2人乗り5艇)</p> <p>○紙の加工品(紙ぞうり、練習帳、千代紙等)をくらうど及びi-nosネットで販売開始</p>
<p>30 山岳資源を活用した交流人口の拡大</p> <p>《いの町》</p> <p>「木の香温泉」を拠点とし、他の観光施設と連携して四国山地の地理的条件を活かした高地トレーニングや、山岳資源を活用した体験メニューの開発により体験観光を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【いの町、いの町観光協会】</p>	<p>○体験メニュー等の開発(H21~23)高地トレーニングのモニター等は、実施されたが、商品化までには至っていない。また、体験メニューづくりもモニターツアーを実施しているが、ウォーキングを除いて完成には繋がっていない。しかし、どちらも参加者には好評で商品化が期待される。</p> <p>◆体験メニュー等の商品化</p> <p>◆商品化に向けての資源の掘り起こし</p> <p>◆売り込み先の確保</p>	<p>○国道194号利用促進同盟会(5/26)に社会実験「国道194号利用促進同盟会」バスツアーを予算計上</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 【目標(H27)】
	とさあるく。受入人数27名	【指標】 【目標(H27)】
○仁淀川カーナー開き(4/15)53名参加 ○やまのそらびと市(4/15)300名程度集客 ○神紙をつなぐ道「いの町」と「仁淀川」体感ウォーク (4/8・29・5/20) 7名参加		【指標】 いの町内の公共施設の利用者数 (H22:約450,000人) 【目標(H27)】 500,000人 (10%アップ)
		【指標】 本川地区の公共施設利用者数 (H22:67,600人) 【目標(H27)】 71,000人 (5%アップ)

<仁淀川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>31 観光情報の一元化とおもてなし観光の推進</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>◆仁淀川町において、情報発信の強化や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。</p> <p>【仁淀川町内の観光関連団体】</p>	<p>○観光6団体のHPが完成し、情報発信力が強化された</p> <p>○仁淀川町の観光を考える会発足(H23.2)し、観光振興の民間団体の結束あり</p> <p>○宝来荘及びびゆの森施設の改装・増築によるリニューアル</p> <p>○ガイドの学校プロジェクト開始(H23.11～)ガイド要員が3名誕生(計6名)</p> <p>○観光会社との連携(伊予鉄トラベル、JAL)・伊予鉄トラベルで120名をガイド</p> <p>・大崎まちなきガイド79名(武田勝頼土佐の会)・JALバックツアー一化(4月)</p> <p>◆ガイド不足、観光ガイド内容調査・整理、ツアーづくりと実践が必要</p> <p>◆既存観光施設の運営、観光案内版等の不足、地域産品の不足、観光団体高齢化</p> <p>◆低コストなバスの運行と道の安全性とトイレの整備(従来型の旅への対応)</p> <p>◆徹底的な差別化されたマニアックな旅の提案(話題性、国内では極めて珍しい)</p>	<p>◆プロジェクト情報共有のための協議(町内観光関連団体と行政)(5/16)</p>
<p>32 歴史的風致維持向上計画の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆「文教のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、観光資源としての充実を図る。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○歴史的風致地区において国庫補助事業「歴史的環境形成総合支援事業」を活用し、佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の上町への移築、景観を損なっている建物を取り壊しての小公園整備など、観光資源としての街並み整備を図り、またソフト事業では、ホームページやパンフレットの作成など対外的な広報活動、情報発信を行うとともに、イベントの開催など、地域での継続的な活動も行うことにより徐々にではあるが観光客の増加がみられている。</p> <p>○国庫補助事業の見直しにより従来の事業から「街なみ環境整備事業」に事業が移行しながら、取組は継続しており、平成23年度に、「街なみ環境整備事業計画書」を作成し、引き続き観光資源としての整備と活用を検討している。地域ではNPO法人佐川くろがねの会を中心に観光資源を生かした観光ガイドの充実や商工会と連携したイベント等を図り、地域の活動が活発化の傾向にある。</p> <p>◆歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、街なみ環境整備事業計画への取組</p> <p>◆佐川町の物産販売、情報発信や地域で作り込んだ観光の提案を積極的に実施する観光組織の設立</p>	
<p>33 佐川町における知的体験型観光の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆「学ぶ楽しみ・触れる楽しみ・交わる楽しみ・五感の楽しみ、大人の知的好奇心を刺激する「佐川学」による観光」を目指し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○平成23年度には、「佐川学」をテーマに量より質の知的体験の観光地域づくりを検討し、知的体験ができる施設の移築・整備を進めることによって、新たな観光メニューの創出による、地域への経済効果波及と地域活性化等の効果を創出するさかわ文教・歴史のまちなみ重点地区まちづくり計画とさかわ文教・歴史のまちなみ重点地区街なみ環境整備計画を作成した。</p> <p>◆歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、施設や観光メニューの整備と観光資源としての活用の検討</p>	

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】ガイド養成人数、実施ツアー数 【目標(H27)】20人、50ツアー
		【指標】歴史的風致地区への入込客数 【目標(H27)】5,000人
		【指標】知的体験施設への入込客数 【目標(H27)】5,000人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>34 佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化</p> <p>《佐川町》</p> <p>◆佐川町には多くの偉人の収蔵資料があり、特に植物学者として世界的に著名な牧野富太郎博士の植物標本や植物画等の資料が多くある。こうした収蔵資料等の展示施設を整備し、集客の核としての充実を図り、「牧野博士」や「佐川の偉人」を旗頭とした文教での地域活性化を推進する。</p> <p>【佐川町】</p>	<p>○平成23年度には、佐川町にある偉人の収蔵資料を活用、特に「牧野博士」を展示する施設の整備することにより、新たな観光メニューによる、地域への経済効果波及や地域活性化等の効果を創出するために、「さかわ文教・歴史のまちなみ重点地区まちづくり計画」と「さかわ文教・歴史のまちなみ重点地区街なみ環境整備計画」を策定した。</p> <p>◆歴史的風致維持向上計画と整合性の取れた、観光資源としての活用の検討</p>	<p>◆牧野富太郎生誕150周年事業の実施(6月現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牧野富太郎の聖地を歩く(2回) ・牧野富太郎とふるさと佐川展(4/24～5/13)
<p>35 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進</p> <p>《越知町》</p> <p>◆情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。</p> <p>【おち駅運営協議会、越知町観光協会、JAコスモス、越知町など】</p>	<p>○H22.4:観光物産館おち駅オープン</p> <p>◆物販販売体制を更に強化する必要がある。</p> <p>○H23.7:カヌー、ラフティング開始</p> <p>◆体験型観光のメニューは仁淀川を活用した物のみであり、荒天時、シーズンオフへの対応が出来ていない。</p> <p>◆団体客に対応できるだけのラフティング・インストラクターがいない。</p>	<p>◆おち駅2周年記念イベント実行委員会の開催(2回)</p> <p>◆経営改善会議の開催(2回)</p> <p>◆横倉山案内人養成講座の開催(1回)</p>
<p>36 直販市を核とした観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆直販市「さんさん市」を拠点として整備し、周辺の観光資源と連携した活用を図ることで、日下川調整池周辺での観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>◆日下川調整池周辺地域において、地域の観光情報発信拠点が必要。</p>	<p>◆庁内プロジェクト会議の開催(1回)</p>
<p>37 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆仁淀川沿いエリアでの新たな観光振興につながる屋形船の運行開始に合わせて船の発着場周辺を整備することで、集客力のアップを図り、観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>◆仁淀川沿いエリアにおいて、川を活用した体験メニューの充実が必要。</p>	<p>◆庁内プロジェクト会議の開催(1回)</p> <p>◆屋形船の運航開始(5/3～)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
◆イベント参加者数(1,190人) ・牧野富太郎の聖地を歩く(66人) ・牧野富太郎とふるさと佐川展(1,124人)		【指標】 資料館への入込客数 【目標(H27)】 5,000人
◆ラフティング実績(4～6月):62名 ◆カヌー実績(4～6月):42名 ◆横倉山案内人養成講座受講者:20名		【指標】 施設での販売額(H22:5,600万円) 体験メニューの造成 案内人の養成数 ラフティング・インストラクター数 (H23:6人) 【目標(H27)】 施設での販売額 6,000万円 体験メニューの造成 6メニュー 案内人の養成数 6人 ラフティング・インストラクター数 8人
		【指標】 体験型観光での入込客数 (H22:7,834人) 【目標(H27)】 23,500人
◆屋形船の利用者数(6月現在):273人		【指標】 体験型観光での入込客数 (H22:7,834人) 【目標(H27)】 23,500人

＜仁淀川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>38 国宝を活用した観光資源の整備による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>◆小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした観光資源の整備を図ることで、小村神社周辺エリアでの交流人口を拡大し、観光振興につなげる。</p> <p>【日高村】</p>	<p>○平成21年度に産業振興アドバイザー制度により観光資源活用調査事業を実施し、エリアごとの活用案を取りまとめた。</p> <p>◆小村神社周辺エリアでは、国宝に指定された大刀の常設展示など観光資源の磨き上げと域内の観光ガイドの組織化など体制整備が必要。</p>	<p>◆庁内プロジェクト会議の開催(1回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】体験型観光での入込客数 (H22: 7,834人) 【目標(H27)】23,500人